

音楽が歴史を変える チェコとドイツの変革とロック

ジャーナリスト

三木寛郎

チェコ独立の陰に

音楽があった

1989～1990年にかけてチェコスロバキアで起きた民主（市民）革命は「ビロード革命」と呼ばれている。ソビエト連邦の傘の下、共産党の一元支配が永らく続いたチェコスロバキアに咲いた民主化の



ビロード革命

波は、1968年に同国において自由化運動が進められたプラハの春を起点とする。

このときは新任のドブチェク党第一書記の下に一連の自由化政策がとられたが、8月にワルシャワ条約機構軍20万人が投入され弾圧された。それからおよそ20年を経て、民主化の動きが再び高まり、知識人らによる「市民フォーラム」が結成され、当時の共産党政権を担っていたヤケシユ共産党指導部は総退陣した。この結果「市民フォーラム」はプラハの春の指導者ドブチェクを連邦議会議長に指名し、劇作家ハヴェルを大統領に選出することになる。そして1990年の憲法改正で国名が「チェコスロバキア」から「チェコおよびスロバキア連邦共和国」と改称された。

この「ビロード革命」に続き、1993年にはチェコとスロバキア

の分離運動を経て連邦制が消滅し、チェコとスロバキアに分離したのは記憶に新しい。こちらは「ビロード離婚」とも呼ばれている。

この「ビロード」という呼称は、革命が暴力をとまわずスムーズに進んだことを意味するものとされているが、じつはもう1つ、チェコの大統領となった劇作家ハヴェルの物語が隠されているのだ。

第2次世界大戦の後、やつとナチスの蹂躪から解放されたチェコにソビエト連邦が軍事侵攻をした。その傘の下で社会主義に縛り付けられたチェコの人々は、相変わらず自由を享受できずにいたのだ。そうした中で抵抗運動を続けていた市民たちの中には、文学、音楽、宗教など、多様な文化も根付いていった。そうしたなか、米国のロックバンド「ヴェルヴェット・アンダーグラウンド」に影響された、文字通りアン

ダーグラウンドで活動していた「ラスチック・ピープル（P.P.U）」というバンドがロックを演奏したという理由だけで逮捕された。この事件がきっかけになり、チェコの抵抗運動は再び動き出すことになるのだ。

1989～1992年までチェコスロバキア大統領、そして1993年から2003年までチェコ大統領を務めたヴァーツラフ・ハヴェルは、1998年、当時の米国大統領だったビル・クリントンにホワイトハウスに招かれたときに、

「もしホワイトハウスが私のために晩餐会を開いてくれるのであれば、ぜひ私の友人ルー・リード（ヴェルヴェット・アンダーグラウンド）もホワイトハウスに呼んで彼の演奏を聴きたい」

と発言し、クリントン大統領はこれを快諾。

ホワイトハウスの晩餐会において、ルー・リードのライブが実現した。

前述のように、元来劇作家であったハヴェルは、米国のみならず西側諸国のさまざまな文化に傾倒し、その中には音楽も含まれていた。ハヴェルのこんな言葉が残されている。

「なぜ私たちがあの革命をビロード革命 (Velvet Revolution) と呼んでいるのか、その理由をわかりますか」

あるときハヴェルはルー・リード本人に「あなたがいたから、私は大統領になった」と語ったといわれている。

ベルリンの壁崩壊前夜

1989年11月9日、ベルリン市内を分断し、東ドイツと西ドイツを分断していた「ベルリンの壁」が事実上廃止された。「ベルリンの壁」は東ベルリン市民が西ベルリンに脱出するのを防止するべく、1961年8月13日にドイツ民主共和国 (東ドイツ) 政府が東西ベルリンの周囲に築いた防壁であり、戦後の米国とソビエト連邦による東西冷戦の象徴

的な存在となっていた。当時のベルリンは冷戦の象徴ともいえる最も厳しい対立点でもあった。

東ドイツ市民の大量出国の事態にさらされていた東ドイツ政府は、旅行及び国外移住の大幅な規制緩和を「事実上の旅行自由化」という形で発表し、その日の夜にベルリンの壁にベルリン市民が殺到し混乱の中で国境検問所が開放され、翌11月10日にはベルリンの壁の撤去作業が始まった。

この「ベルリンの壁」崩壊にも音楽が係っている。

英国のロック・ミュージシャン、デヴィッド・ボウイである。彼は1970年代に一時期西ベルリンに居住しており、この時に生まれた3枚のアルバム『ロウ (Low)』『ヒーローズ (Heroes)』『ロジャー (Roger)』は「ベルリン3部作」とも呼ばれ、ボウイの代表作として知られている。この時に歌われたのが、ベルリンの壁の近くでデートをする男女を描いた「ヒーローズ (Heroes)」という曲である。このデヴィッド・ボウイが1987年6月6日、西ベルリンのライヒス

ターク (国会議事堂) 前広場で野外コンサートを開催した。コンサート会場は「ベルリンの壁」に隣接しており、西ベルリンの観客に向けて行われた野外ライブではあったが、あえて壁側 (東ベルリン側) に設置されたスピーカーの4分の1を壁の向こうに向け、ボウイはこう叫んだ。

ちなみに、2016年にボウイが亡くなった時、ドイツ外務省は「さよなら、デヴィッド・ボウイ。あなたは英雄 (Heroes) だ。壁を壊してくれてありがとう」とツイートした。

ウクライナにはどんな歌が：

「この壁の反対側にいる我々の友人たちのために幸せを祈ろう」

チェコとドイツ、2つの国の歴史には音楽が大きく関わっている。いま、世界が注目する、ロシアの軍事侵攻に晒されているウクライナはどうだろう。

西ベルリンには8万人の観衆がいたが、壁の向こう側には5000人の東ベルリン市民が集まっていた。当時の東ベルリンでは、許可なく集会を開いただけで逮捕拘束される状況であったが、東ドイツ政府警備兵の制止にもかかわらず、ほとんどの東ベルリン市民が立ち去ろうとせず、大変な盛り上がりとなった。事実上の東ドイツ政府権力の無力化であったのだ。

ウクライナの大統領であるウオロディミル・オレクサンドロヴィチ・ゼレンスキーは、もと俳優である。ロシアが進行してきた当初、ゼレンスキー氏は国外脱出を準備しているとの情報も流れていたが、これをはっきりと否定。首都キエフの大統領府の外で撮影した動画メッセージを公開し、あくまでキエフにとどまり、ロシア軍と戦い続けると強調した。

この時、ボウイが歌った「ヒーローズ」には、ベルリンの壁の近くでデートする恋人が描かれており、「ベルリンの壁」が崩壊に向かう象徴の曲となった。そして2年後の1989年11月9日、「ベルリンの壁」は崩壊する。

そんな彼とウクライナの人々に力を与える歌を、誰が歌うのだろうか。日本にもそんなミュージシャンが居てほしい。